

# ケアの質向上を目指した ポータブルエコーの導入

公益社団法人山形県看護協会  
訪問看護ステーションやまがた 山川一枝

訪問看護  
ステーション  
やまがた  
の概要

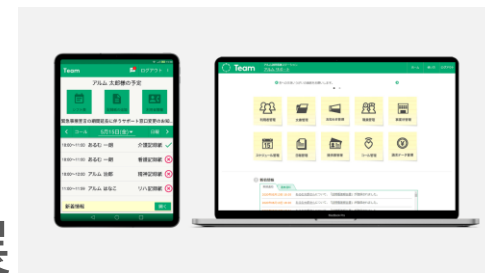
- 所在：山形市
- 開設：平成5年5月
- 職員数：看護師17名
  - 理学療法士2名
  - 作業療法士2名
  - 事務職3名
- 居宅介護支援事業所併設：
  - ケアマネジャー3名
- 実施地域：山形市、上山市、
  - 山辺町、中山町、天童市
- 利用者数：200名（月平均）



## 当事業所の ICTの活用について

### ◇平成28年4月より電子カルテの導入

- 1人1台モバイルPC使用
- 記録システムの導入
- 情報の共有、緊急対応の効率化



### ☆コロナ禍で急速な進展

### ◇地域の関係事業所との情報共有

- 利用者ごとの連携ツールの活用

### ◇職員間の情報共有

### ビジネスチャットツールの活用



## 取り組みの 背景と目的

### 【背景】

近年、訪問看護の現場でポータブルエコーの導入により、アセスメントの向上など効果が実証されている。当事業所においてもポータブルエコーを使用することで、より質の高いケアの提供を期待し導入に至る。

### 【目的】

ポータブルエコーを導入により  
ケアの質向上を目指す



## 取り組みの 内容

- ◇ポータブルエコー<sub>1</sub>台購入
- ◇ポータブルエコーについての  
所内での研修の実施
- ◇導入直後はエコー利用強化期間  
として、スタッフ<sub>1</sub>人<sub>1</sub>日持参し  
利用者へ説明の上、使用



## 取り組みの 内容

◇所内ですぐに使用できる状態にして必要時使用

### 【使用している例】

- ・ 「尿が出ない」緊急時の対応
- ・ 膀胱留置カテーテル留置中の方の留置の確認
- ・ 腹水の確認

## 取り組みの 内容 【事例】

### 【膀胱留置カテーテルを抜去した事例】

- 80歳代 男性 脳出血後
- 入院中から膀胱留置カテーテル留置
- 退院から1年以上経過。  
尿道口の拡大、本人より抜去の希望あり
- 主治医へ相談しカテーテル抜去に了承あり
- 抜去後おむつへ排尿の確認、エコーで残尿確認  
残尿ほぼなし、その後留置せず経過

## 取り組みの 成果と効果

### 【使用しての成果】

- 画像により状態を確認できる
- 簡単に状態を確認できる
- 利用者への侵襲、負担が少ない
- 確認した情報を医師へ報告できる

### 【効果】

- 情報の可視化
- アセスメント力の向上
- 利用者のQOL向上を目指した  
ケアの提供



## 今後の展望

### 【活用】

#### ◇情報収集のツールとして

- 医師への報告時の画像の共有
- 利用者の負担軽減

（確認のための侵襲の軽減）

- 利用者への画像提示による

状態説明が可能

### 【課題】

- 看護師の技術

操作、画像の確認技術

- アセスメントツールとしての活用の意識づけ